ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：現代社会学部　名前：服部　陽介　作成日：2024 年 1 月 23 日

１．教育の責任

「国内外の社会現象を教育研究の対象とし，現代社会の諸課題を発見・理解できる基礎力を備え，社会で活躍できる人材の養成を目指す」という現代社会学部の教育目標を踏まえ，エビデンスに基づいて人の心の理解を目指す心理学の理論と方法論の教育，およびそれらを用いた実習を通じて，日常の中にある様々な課題を発見し，それらを解決するための基礎力の育成を目指す。

２．教育の理念

現代社会における課題・問題の多くには人が関与しており，人の心の理解を目指す学問である心理学の貢献できる部分は多いと考えられる。「リベラルアーツ教育を通じてすべての学生が豊かな教養と専門的学術，旺盛な自己開発精神，優れた国際感覚および問題解決能力を備えた人材を育成する」という本学のカリキュラム・ポリシーを踏まえ，心理学に関する教育と実践を通して課題発見力と論理的思考力を養い，より良い社会を実現することのできる人材を育成することを目指している。

３．教育の方法

課題発見力と論理的思考力を養うことを目的として，以下のような教育を実践している。

1 年生から履修することのできる「心理学概論」という授業を担当しており，心理学に初めて触れる学生を想定し，幅広いテーマを取り扱っている。その際，各テーマに対応する日常の事象を取り上げ，専門的な知識と日常を接続する工夫を行う。さらに，具体的な研究例を示し，そこで用いられた手続きや得られたデータについても，初学者にもわかりやすい形でできるだけ詳細に説明をするよう心掛けている。また，授業内に心理学実験や調査のデモを組み込み，得られたデータを即座にフィードバックし，過去の知見との移動について論じる。これらを通して，日常に潜む課題を発見し，その問題について論理的に考える力を養う。

「心理学実験 I/II」は演習の授業であり，過去に行われた心理学実験や調査を実際に経験し，そこで得られたデータを自らの手で分析し，レポートを作成する。これらの一連の過程は，物事を客観的にとらえ，論理的思考によってそれらを整理することで心の理解を目指すものであり，上記の課題発見力と論理的思考力の更なる向上を目標として，授業を行っている。

演習形式の授業では，学生の進捗を確認し，適宜，学生からに意見を求めそれらに対応して内容を調整するという双方向型の授業を行っている。また，一般に，双方向型の授業が難しいとされる大人数を対象とする講義形式の授業では，「パパパコメント」という，共有している画面に学生がコメントを流すことを可能とするツールを用いることで，できる限り学生と相互にやり取りができる機会を増やしている。

４．教育の成果

授業アンケートでは，演習形式・講義形式の別に関わらず，いずれの担当授業でも学生から「課題発見力」と「論理的思考力」の項目について高い得点を得ている。したがって，概ね目標に沿った形で教育実践ができているものと考えられる。初学者を対象とした授業では，授業ごとに受講者に意見や感想を書いてもらっているが，その内容にもポジティブなものが多い。

その一方で，一部の学生からは「難しかった」や「よくわからなかった」というコメントがあがっており，教員相互で行う授業見学においても，やや難易度が高いという指摘を受けた。取り扱うトピックによりこれらのコメントがみられる頻度にはばらつきがあるが，受講生の興味・関心と難易度のバランスの調整には，さらなる努力が必要であると考えられる。

５．改善への努力と今後の目標

初学者を対象とする講義形式の授業では，より多くの学生が心理学に興味を持つことができるよう，親しみやすいテーマ設定と体験を通した学びの実現を目指す。一方で，資格の取得に関わる科目でもあるため，一定の水準を下回らないレベル設定を行う必要があるため，両者のバランスをとっていくことが次年度の今後の課題となる。

演習形式の授業では，課題等の途中で手が止まってしまっている学生をピックアップするよう心がけている。しかしながら，依然としてド

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：現代社会学部　名前：服部　陽介　作成日：2024 年 1 月 23 日

ロップアウトをしてしまう学生が一定数存在する。特に，授業区分が必修から選択必修に変更された心理学実験 I については，以前よりもドロップアウトする学生が増加しているように思える。今後は，さらにきめ細かな配慮と対応を目指す必要があるだろう。複数のクラスを異なる教員が同時開講する科目であるため調整が必要となるが，教員間で相互に連携しながら，クラス間で差が生じないよう対応していく。

【添付資料】